



千葉労働動向

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 千葉 (22) 7207 番

91.11.28 No. 3502

動乗勤妥結策動を吹きとばした 1波-2波スト 拠点報告① 千葉 京 葉



土岐反動区長を先頭とする千葉転当局は、何と第一波スト前日の二一日朝から、庁舎入口の鉄柵を閉じ、対策員がピケを張って、組合事務所や庁舎への立入りを実力で妨害しはじめた。明らかにスト破り行為だ。しかし千葉転の万全のスト体制は揺がない！怒りは倍化するのみだ。

二二日正午より、各行先地において、スト対象者が次々とストライキに突入する。JR総連革マルは、内部から怒りが噴出して、今回は東京からスト破り要員を送り込むこともできない。列車は次々と止まりはじめダイヤはガタガタだ。運転区周辺には組合員が結集し、スト突入集会。四時間のストは意気軒昂と闘いぬかれた。

しかし、千葉転当局は、スト立上りになっても組合員を庁舎に入れよう



JR当局の異常なスト対策

としぬい。「勤務開始場所」なるものをファックスで一方的に送りつけておきながら、鉄柵を閉じたまま二〇分も三〇分も組合員を庁舎に入れられないのである。労務政策しか頭にない当局も大混乱しているのだ。「何で入れないんだ！」怒りの声に対して、当局は「確認中だ」と繰り返すのみだ。

二五日、第二波スト当日、幕張・新小岩支部からの応援も含め、千葉運転区前に組合員が総結集しわスト前夜総決起集会を開催、再び第二波ストへの万全の体制がつけられた。当局は、この日の朝から組合員を庁舎に入れないために、何と賃金の支払いまで庁舎外ではじめた。夜になると当局は、泊勤務の乗務員を、各宿泊場所から排除しはじめた。またスト突入前

なのだ。しかも当局は「就労する意志があるのかな」と個人に確認をとっているという報告が入る。明らかにストライキに対する介入だ。怒りも新たに初電からストライキに突入する。あまりにも違法・不当な当局のスト破り攻撃に、対して一二時までのスト予定は一五時まで拡大された。本部からの戦術拡大の報告に対し、組合員は「そうだ！」の声。またスト中には乗務員立ちあがり、第一波よりも更に目茶苦茶だ。復帰のために門前に来た組合員に対して、黙りこんだまま何の指示もないのだ。判断能力がないのである。

第一波・第二波ストは、まさに当局を揺がして貫徹されたのである。

力強いシュプレヒコール！ 京葉支部



京葉支部は動乗勤改悪攻撃粉砕の一波―二波闘争を一糸乱れず貫徹した。JR東労組の牙城・京葉運輸区・電車区の中において、完全とストライキに起った乗務員の気迫は必ずや京葉の力関係をさえ逆転させるものであることを確信する。

現在京葉運輸区の東労組は動乗勤改悪攻撃に対し、何の対応もできず、その内容さえ何も知らないうのが実情だそうである。

その意味においても、動労千葉のストライキの波及力は絶大なものがあり、正門を通る東労組組合員は一様に驚きとともに沈痛な表情であった。

そこにはJR総連の分裂状況があり、地獄そのものの「JR五万人体制」合理化攻撃が現場を直撃しているということである。

二二ストでの京葉運輸区を揺りうごかす突入集会とシュプレヒコールは、組織拡大への展望をもち切り拓くものとなったのではなからうか！

二六ストでは、津田沼支部と合同で前夜集会―突入集会と行動を共にし、お互いの闘争についての意見交換を行うなど、支部結成四年目にして着実に力強さを増す支部の力量を感じさせた。

JR当局の不法・不当なスト妨害を徹底的に打ち砕き、闘い抜かれた京葉支部の二二―二六ストは、支部組合員の心に鮮明に焼きつくものであった。

動乗勤改悪を許さない闘争の継続へ向けて、支部一丸となって突き進む決意である。